

国内情報

2025年黒毛和種種雄牛生産者へ感謝状を贈呈

事業部 大島 朋和



令和7年11月28日(金)、当団本部会議室において、「2025年黒毛和種種雄牛生産者感謝状贈呈式」を開催しました。本贈呈式では、2025年に選抜された検定済種雄牛のうち計画交配等により作出した種雄牛8頭の生産者に加え、特別表彰として、令和7年3月31日時点(公益社団法人 全国和牛登録協会提供データ)での子牛登記頭数が当団種雄牛において第1位となったP黒948「福之姫」号の生産者の川上偉功さんもお招きし、感謝状を贈呈しました。また、来賓として独立行政法人家畜改良センター入江正和理事長にもご臨席いただき、式典に華を添えていただきました。

…生産者の皆さん…

[R03現検前期選抜]

- 愛之桜号生産の酪農学園元野幌農場(北海道)
- 優鶴福号生産の福澤嘉諭さん(北海道)
- 和華久号生産の原澤幹夫さん(群馬県)
- 伊勢之鶴号・伊勢之舞号生産の加藤勝也さん(三重県)

[R03現検後期選抜]

- 知恵照号生産の原澤幹夫さん(群馬県)
- 武知恵号生産の武隈英和さん(北海道)
- 若幸久号生産の武藤嘉門さん(三重県)

[特別表彰]

- 福之姫号生産の川上偉功さん(栃木県)

この贈呈式は、わが国の乳用牛および肉用牛の改良を牽引する検定済種雄牛の生産に携われた皆さんに対して心からの敬意と、後代検定事業へのご協力に対し深甚なる謝意を表すため毎年この時期に開催しており、今年で37回を数えます。出席された7組の方々に、富田理事長から感謝状と記念品をお贈りしました。

贈呈式では、生産者を代表して酪農学園大学 高島英也理事長よりご挨拶をいただきました。高島理事長は、

「このような栄誉ある表彰をいただけたこと、喜びに堪えません。何よりも本日の表彰を最も喜んでいるのは本学の学生であり、共に仕事をしている職員です。今回選抜された優秀な種雄牛の遺伝子資源が全国に供給され、活躍してくれることを願っています。」と述べられました。

また、特別表彰を受賞した川上偉功さんからもご挨拶をいただきました。川上さんは、「福之姫が選抜された当時を振り返ると、嬉しさと不安、期待が入り混じった複雑な気持ちでした。全国肉用牛枝肉共励会で福之姫の産子が名譽賞を2連覇した際、本当に素晴らしい種雄牛になったと確信しました。さらに、2025年の春に福之姫産子の子牛登記頭数が歴代1位になったと聞き、大変誇らしく感じました。7年前の本贈呈式で生産者代表として挨拶した際、「福之姫が全国の繁殖農家や肥育農家から信頼される種雄牛になって欲しい」と述べたことを今でも覚えています。まさにその願いどおり、全国の畜産農家に信頼された結果が形となったのだと思います。福之姫が活躍する期間は決して長くはありませんでしたが、全国の福之姫の産子達が活躍してくれることを願っています。本当に素晴らしい牛が我が家から誕生したことを誇りに思います。」と語られました。

生産者の皆さんの紹介

今回、感謝状贈呈の対象になった7組の生産者の方々をご紹介いたします。

酪農学園元野幌農場

P黒1182 (R03現検前期選抜)
愛之桜

(北海道江別市)

●高島英也さん
堂地修さん
西寒水将さん

元野幌農場は2008年に肉牛の教育研究施設として、既存の元野幌牧場をリノベーションし、新たな肉牛農場として整備されたことからスタートしました。黒毛和種の基礎牛群を整備するため、交雑種（F1）育成牛15頭を導入し、その腹に黒毛和種受精卵を移植したことから、黒毛和種の生産が始まりました。その後、教育研究施設として実習用に黒毛和種6頭を導入した以外は、生体の新規導入は行わず、自家保留牛によって牛群の整備を進めてこられました。元野幌農場の黒毛和種繁殖牛は、第一世代の子孫にあたる4つの雌牛系統が牛群を構成しています。現在では、黒毛和種繁殖雌牛40頭、日本短角種繁殖雌牛6頭、肥育牛6頭（黒毛和種2頭、日本短各種4頭）、子牛41頭の93頭を学生が中心となって飼養管理されています。農場の牛たちは、学生の卒論・修論・博士論文での研究対象でもあり、実習などの際に学生が安全に取り扱えるよう、性質温順な牛を揃えることに取り組まれています。学生による研究としては、エコフィードを用いた肥育試験、人工哺乳に関する研究、ゲノミック評価と体型評価を活用した牛群整備や系統造成、さらには分娩に関する基礎データの蓄積など、多岐にわたるテー

マに日々取り組まれています。こうした実学教育を通じて学生達は、卒業後に全国の農家や畜産関係団体などで幅広く活躍されています。また、「大学という教育機関でも種雄牛候補を生産できるのか」という農場設立当初からの目標に挑み続け、その成果として誕生したのが、「愛之桜」です。

(有)福澤農場

(北海道河東郡上士幌町)
●福澤嘉諭さん・みかさんご夫妻、えみりさん
P黒1186 (R03現検前期選抜) 優鶴福

(有)福澤農場は約100年前に曾祖父が長野県から入植したことから始まり、嘉諭様で4代目になります。曾祖父から祖父までは豚や馬、畑作など幅広く農業を行っていましたが、3代目のお父様の代から酪農業を営まれるようになり、その後ホルスタインの育成、畑作の複合経営になりました。平成20年頃に嘉諭様が畜産部門責任者となり、宮崎県から黒毛和種繁殖雌牛を2頭導入したことから黒毛和種繁殖経営がスタートしました。現在では、嘉諭様ご夫妻、ご両親、5名の従業員を加えた9名体制で、繁殖経営や人工授精所の運営、畑作（55ha）に取り組まれています。繁殖経営では300頭を自社農場で飼養管理され、借腹用としてのF1牛や預託牛を含めると約500頭になります。子牛の生産については人工授精での産子は少なく、ドナー牛からの受精卵でほとんどを生産するなど、受精卵技術を積極的に取り入れた経営を行っています。加えて、素牛販売では購買者から求められる牛を安定して供給できるよう、繁殖雌牛の能力・特徴をしっかりと受け継いだ次世代牛の生産に取り組まれています。



(株)原澤牧場

(群馬県利根郡みなかみ町)
●原澤幹夫さん

P黒1188 (R03現検前期選抜) 和華久
P黒1202 (R03現検後期選抜) 知恵照

(株)原澤牧場はお父様の典雄様が昭和42年に肥育牛1頭から肉牛の飼養を始められたことから開始されました。その後、肥育⇒一貫⇒肥育⇒一貫⇒繁殖と経営体系を変えつつ、昭和60年頃から本格的に黒毛和種繁殖経営に重きを置くため増頭を開始され、和牛繁殖雌牛が50頭規模となりました。平成29年に幹夫様が就農されてからは、典雄様ご夫妻と幹夫様ご夫妻の4名で黒毛和種繁殖雌牛を120頭まで増頭するなど規模拡大を図り、現在では年間100頭の子牛を群馬県の渋川家畜市場へ出荷されています。

(株)原澤牧場では、地元の公共育成牧場を活用した委託放牧を行い、労働力を軽減しつつ牛の改良や子牛の資質向上に専念されています。特に牛の改良では、ゲノミック評価を10年ほど前から全頭実施することで繁殖雌牛の保留・更新に活かし、受精卵移植技術も併用することで改良スピードを飛躍的に向上させてきました。その結果、多くの子牛が渋川市場において高値で取引されています。



(株)三重加藤牧場

(三重県四日市市)
●加藤勝也さん・美子さんご夫妻

P黒1197 (R03現検前期選抜) 伊勢之鶴
P黒1198 (R03現検前期選抜) 伊勢之舞

(株)三重加藤牧場は昭和39年に先代が豚6頭の養豚業を始めたことから畜産経営がスタートしました。先代の娘の美子様と勝也様との結婚を期に養豚業を廃業し、牛の飼養に変更されました。平成27年2月に株式会社となり、同年4月に三重県多気郡明和町に明和牧場、令和2年3月には滋賀県東近江市に蒲生牧場を設立し、現在では3つの農場を経営されています。現在は四日市市の牧場に13名の職員で黒毛繁殖雌牛約330頭、交雑種繁殖雌牛約160頭、肥育約510頭、明和牧場に4名で肥育400頭、蒲生牧場に1名で肥育180頭を飼養管理され、延べ70haの耕作地と稲わら・麦稈収集面積300haも所有しています。肥育では地域の未利用資源であるオカラの発酵飼料を用いて、地域内で完結できる地域循環型の畜産経営を展開され、美味しいくて安全な牛肉を消費者に届け、働く仲間と共に成長していく牧場を目指されています。

現在、勝也様は三重県畜産事業協同組合 理事長、四日市振興協議会 会長、四日市畜産公社 役員など数多くの役職に就かれており、県内の畜産振興に尽力されています。



(株)武隈ブリーディングファーム

(北海道中川郡豊頃町) ●武隈英和さん

P黒1203 (R03現検後期選抜) 武知恵

(株)武隈ブリーディングファームは、もともと馬産・畑作・F1育成などの複合経営を行っておられましたが、平成元年に黒毛和種の繁殖雌牛10頭を導入したことを契機に、繁殖経営を開始されました。その後、平成27年2月に法人化され、現在では英和様ご夫妻、従業員8名、パート2名の体制で黒毛和種繁殖雌牛197頭、肥育牛28頭を飼養管理されています。また、畑作にも力を入れており、ジャガイモ20町、大豆12町、小豆8町、牧草60町を栽培するほか、販売用としてデントコーン13町も生産されています。(株)武隈ブリーディングファームは体型・能力の優れた母牛を選抜することで牛群を整備し、付加価値の高い子牛を生産されてきました。その生産には、全国一のホルスタインが飼養されている北海道の特徴を活かすために受精卵移植技術を積極的に活用することで、優秀な産子は子牛市場でも高い評価を得ています。

現在、英和様は北海道和牛振興協議会副会長、十勝和牛育種組合長の要職に就かれ、令和9年に開催予定の全国和牛能力共進会北海道大会の成功に向けて、北海道和牛界の中心人物となり牛づくりに励まれています。

武藤牧場

(三重県桑名市)

●武藤嘉門さん

P黒1206 (R03現検後期選抜) 若幸久

武藤牧場は70年ほど前にお父様の吉男様が約20頭の和牛肥育を始められたことから開始されました。その後、徐々に頭数を増やされ嘉門様の代から繁殖雌牛の飼養もスタートし、現在では嘉門様とアルバイト3名の4名体制で黒毛和種繁殖雌牛70頭、肥育牛70頭の一貫経営を営まれています。アルバイトとして働く昭和13年生まれの87歳のベテランの方が肥育牛の管理に携わり、愛情を込めて牛を育てています。牛舎の一部は築200年以上の歴史を持ち、もともとは味噌蔵として利用されていた由緒ある建物です。

武藤牧場では、自ら肥育した牛のほとんどを直売店「山嘉」で販売されています。「きめが細かく柔らかい肉質」が評判を呼び、多くのファンに支持される人気の直営店です。今後は「サシのさらなる改良ではなく、モモ抜けが良く、より食べて美味しい牛肉」の生産を目標とされ、強健で病気にかかりにくい繁殖雌牛の牛群整備も目指されています。



【特別表彰】

川上牧場

(栃木県大田原市)

●川上偉功さん・弘子さんご夫妻

P黒948 (H26現検前期選抜) 福之姫

川上牧場は、もともと養豚経営を営まれていましたが、約45年前にお父様が広島系統を中心に繁殖雌牛を導入されたことを契機に、黒毛和種の繁殖経営を開始されました。その後、偉功様が20歳で就農されてから徐々に頭数を増やし、現在では22頭を管理しながら「肥育農家に喜ばれる牛づくり」を目指して日々取り組まれています。また、水稻6.5ha、苺10aの作付けにも取り組み、農地を有効活用する複合経営を実践されています。こうした経営スタイルは高く評価され、平成19年には「第1回栃木県元気な農業コンクール首都圏農業者部門 複合の部」で、とちぎ元気賞(知事賞)を受賞されています。

「福之姫」は産肉能力平準化事業 平成26年度前期種雄牛としてエントリーされ、全国各地で調整交配が実施されました。同時期に当団では枝肉形質ゲノミック評価の開発が進められており、実用化に向けて試行を行ったところ「福之姫」は飛びぬけたゲノミック育種価を有していることが判明しました。選抜に向けて高い期待を背負っていた「福之姫」は、平成29年春から開始された枝肉調査において平均BMS No.9.2を記録し、当時の平準化事業最高の成績を収め選抜されました。「福之姫」の凍結精液は、平成30年4月1日か

ら令和4年度末までに約38万本を全国に供給しました。産子の肥育結果も優秀で、全国各地の名だたる枝肉共励会で名誉賞や最優秀賞に輝くなど、現在でも功績を残し続けています。

令和7年3月31日時点での「福之姫」産子の子牛登記頭数は244,608頭に達し、当団種雄牛では歴代1位となっています。凍結精液供給期間が約5年と短期間でありながら、これほど広く利用された種雄牛は他におらず、正真正銘、当団を代表する種雄牛です。

